

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020

モデル事業について



令和元年11月29日 サンゴ礁生態系保全行動計画 フォローアップ会議資料

WWF ジャパン 鈴木倫太郎

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 (2016年3月環境省策定)

- 生物多様性が大変豊かなサンゴ礁生態系：私たちの暮らしへの恵み
- サンゴ礁生態系の状況：気候変動、開発・破壊、オニヒトデ被害、陸域からの汚染等、様々な脅威にさらされて著しく劣化
- 「海洋基本計画」「生物多様性国家戦略2012-2020」のサンゴ関係の行動計画
→ 愛知目標「サンゴ礁など気候変動や海洋酸性化の影響を受ける脆弱な生態系への人為的圧力を最小化し、その健全性と機能を維持」の達成に貢献
- 目標：2020年度末、地域社会と結びついたサンゴ礁生態系保全の基盤構築

■ 推進主体
環境省、関係省庁、地方自治体、日本サンゴ礁学会等が協力して作成
→ 実施にあたっては、より多くの主体と協働
地域の関係者（農林水産業、観光業、学校、公民館、研究者、NGOなど）がサンゴ礁の重要性や暮らしとのつながりを認識し、サンゴ礁生態系に配慮した行動をとり、保全の取り組みを連携して行うことが大切

■ 3課題におけるモデル事業の実施

- ① 陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進
- ② サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進
- ③ 地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築



2020年までに特に重点的に取り組む3課題		
	現状と課題	2020年度における目指すべき姿
①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発事業と農地からの赤土流出、化学肥料・畜産し尿・生活排水からの栄養塩流出 ・ 農地における整備での対策とソフト対策の組合せ、農地等への普及啓発、汚水の適正処理等が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関の連携、協力により、数カ所の地域において陸域に由来する負荷の軽減対策を試行し、そこから得られる教訓を他地域でも応用可能なように整理・提供する
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光資源としての価値が高まり、観光利用が増加 ・ 過剰利用、不適切な利用による踏みつけや接触による悪影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムのモデル事例が構築され、サンゴ礁生態系の適切な活用方法や保全などに係るノウハウ等の共有体制が構築される ・ 海外観光客増加に向け、多言語対応の保全への理解を深める効果的な普及啓発ツールが開発・提供される
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴ礁生態系と地域の暮らしとの隔たりが急速に拡大 ・ サンゴ礁とのつながりで育まれた地域の伝統文化の消失、漁業資源の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴ礁生態系がもたらす恵みが地域毎に整理され、理解され、適切に活用されることを通じて、地域主体のサンゴ礁生態系の保全が促進される ・ 高緯度サンゴ群集域においては、サンゴ礁の恵みの活用方法などに関する情報の共有が促進される

モデル事業について

- 環境省では、各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためのモデル事業を実施（2016-2020の5カ年間を予定）

重点課題① 陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進
→ 与論島
・ 陸域から地下水と表流水を通じ、サンゴ礁海域へ流入する栄養塩により、サンゴ礁礁池の生態系への影響が及んでいる。
→ 陸域からサンゴ礁への負荷軽減の具体的な対策の構築

重点課題② サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進
→ 石垣島米原海岸
・ 過剰利用、不適切な利用による踏みつけや接触による悪影響
・ 地域が主体となった海岸の適正利用ルール策定、周知、運用を目指す

重点課題③ 地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築
→ 喜界島
・ サンゴ礁生態系と生活との乖離
・ 地域が主体となったサンゴ礁文化の掘起しと活用

